

モザンビーク共和国月報（2022年6月）

主な出来事

【内政】

- カーボデルガード州情勢（アंकアベ郡初の襲撃事件の発生）
- カーボデルガード州情勢（シウーレ郡初の襲撃事件発生）
- カーボデルガード州情勢（メクフィ郡初の襲撃事件の発生）
- カーボデルガード州情勢（ナンプラ州初の襲撃事件発生）
- カーボデルガード州情勢（モザンビーク大統領発言）

【経済】

- モザンビーク経済（物価上昇に対するニュシ大統領の発言）
- モザンビーク経済（INEによる最新のインフレ率の発表）
- 非開示債務問題（シャン元財務大臣の身柄引渡し請求の進展）
- モザンビーク・ルワンダ関係（ルワンダにおけるモザンビーク査證件数の増加）

【内政】

カーボデルガード州情勢（アंकアベ郡初の襲撃事件の発生）

5日、イスラム国と関係がある武装勢力は、1か月前に新たな拠点を設立したとみられるカーボデルガード州アंकアベ郡を初めて襲撃し、同郡ナンドゥリ（Nanduli）にて1人を斬首、数十軒の家屋に火を放った。

ニュシ大統領は、アंकアベ郡での襲撃の発生を認めた。本襲撃は、武装勢力と戦う外国軍が現地入りして以来、避難民を受け入れている同郡を襲った最初の襲撃である。同大統領によれば、「かなり遅れて」襲撃現場に到着したモザンビーク防衛・治安維持部隊（FDS）が武装勢力を撤退させた。

他方、6日、モザンビーク共和国警察（PRM）は、アंकアベ郡の攻撃は「誤報」であると繰り返し述べ、住民に動揺しないよう呼びかけた。（6日付VOA紙）

カルタデモザンビーク紙の調べによると、5日（日）にアंकアベ郡ナンドゥリ（Nanduli）で発生した襲撃事件で、4人が死亡した。男性3人と女性1人が死亡し、そのうち2人がテロリストに火をつけられて家の中で焼け死んだ。被害者は病気であったため、襲撃の際に逃げるができなかったようである。また、残りの犠牲者は斬首された。殺害に加え、テロリストは何人かを誘拐したが、誘拐された人数の具体的なデータはない。また、住居やテントに放火し、住民から物資、特に食料を略奪した。

本襲撃について、6日、ベトナム共産書記長との会談の-marginで、ニュシ大統領が確認した。すなわち、ニュシ大統領は、モザンビーク警察が言ったことが嘘であることを確認したのである。

（7日付カルタデモザンビーク）

カーボデルガード州情勢（シウーレ郡初の襲撃事件発生）

12日、イスラム国メディアは、シウーレ郡東部のレテネ（Retene）にて、民間人2名を殺害し、70軒の家屋に放火した旨を発表した。本襲撃は、地元の関係者によって確認された。また、本襲撃は、シウーレ郡にて確認された初めての襲撃であり、武装勢力による最南端での襲撃である。

（14日付ACLED）

カーボデルガード州情勢（メクフィ郡初の襲撃事件の発生）

12日、イスラム国はソーシャルメディアを通じて、シウーレ郡マゼーゼ（Mazeze）行政区内のレテネ（Retene）において、民間人2名の殺害及び70軒の家屋の放火を発表した。マゼーゼにおいて、家屋が焼失し、少なくとも10名が殺害された旨の噂があったが、確認は取れておらず、また、上記レテネにおける襲撃と同一であるのか、それとも別の襲撃事件なのかは判然としていない。シウーレ郡レテネから西14キロメートルに位置する同郡ミコレネ（Micolene）においても襲撃があったとする未確認情報がある。

現地の情報ソースによれば、13日、メクフィ郡マンクアイア（Mancuaia、Mankuaya）にて、武装勢力が男性一名を斬首した。

今週まで、シウーレ郡及びメクフィ郡における襲撃は一度も確認されていなかった。

（14日付ジタマール紙）

カーボデルガード州情勢（ナンプラ州初の襲撃事件発生）

カーボデルガード州で活動する武装勢力は、ルーリオ川を渡りナンプラ州に入った。イスラム国のソーシャルメディアによれば、17日、武装勢力はメンバ郡ルーリオ（Lurio）を襲撃し、民間人1名を斬首した。本襲撃は、この紛争が始まってから4年半が経過した現在までに、ナンプラ州で発生した初めての襲撃である。

モザンビークの通信社であるピナクレニュースによれば、武装した集団は夜明けにルーリオに侵入し、食糧を略奪の上、現地の商人1名の腕を撃った。また、同報道機関によれば、撃たれた商人は現地の病院で回復した。翌日、イスラム国のソーシャルメディアチャンネルにおいて、民間人1人の斬首及び物の略奪を主張する犯行声明を発表した。

（17日付ジタマール紙）

ザカリアス・ナクテ・モザンビーク共和国警察（PRM）報道官は、ナンプラ州メンバ郡ルーリオ行政区内の集落の一つにおいて複数の小屋が破壊された事件は、テロリストと関連づけることはできない旨述べた上で、同事件が住民にパニックを引き起こしたことを指摘した。また、何が起こったのかを明らかにするためにPRMが活動している旨述べた。テロリスト達は迅速に男性2名を射殺し、男性1名の腕を折り、住民の小屋を燃やした。その後、ルーリオ川を渡ってカーボデルガード州に戻り、シウーレ郡ムリパ（Muripa）におい

て、小屋と教会を燃やした。

(21日付カルタデモザンビーク)

ナンプラ州では、14日にメクフィ郡マンクアイア (Mancuaia) で発生した襲撃の3日後の17日、本紛争開始後初の襲撃があった。ISのソーシャルメディアによれば、武装勢力はメンバ郡ルーリオを襲撃し、民間人1名を斬首した。現地の情報源は、襲撃があったことを確認した。オンライン通信社のピナクレニュースは、武装勢力が食糧を略奪し、現地の商人の腕を撃ち、同商人は病院で回復している旨報じた。ナンプラにおけるモザンビーク警察報道官であるザカリアス・ナクテ氏は、事件の発生を半ば否定するような発言をした。ナンプラに拠点を置くイクウェリ紙は、ルーリオの住民の話として、本襲撃は、武装勢力のリクルーターを解放し、ルーリオ川を渡ってカーボデルガード州シウーレ郡に連れ戻すための作戦であった旨報じた。

(22日付イクウェリ紙)

カーボデルガード州情勢 (モザンビーク大統領発言)

ニュシ大統領は、独立47周年記念日式典において、カーボデルガード州の反政府勢力によるテロ行為は、モザンビークの人命を犠牲にするとともに、国家主権と独立に対する真の脅威であり、当該地域のみならず、国全体の社会経済上の活動を危うくするものであると述べた。また、同大統領は、2017年以来続くテロとの戦いは依然として優先事項であり、ルワンダやSADCとの連携の下で、モザンビーク国防軍は、現在、同州南部に逃避する反政府勢力を包囲しつつあると述べた。さらに、テロリストは、住民に一層の恐怖を抱かせることを試みており、メディアを利用してテロが組織化され、活発化したというメッセージを発しようとしている、しかしながら、反政府組織は、いかなる居住地、郡あるいは行政区画も占領していない、テロ攻撃の発生は記録されているが、現在、テロリストの手に渡った居住区や行政庁本部は存在せず、カーボデルガード州はモザンビーク当局の管理下にある旨発言した。

ニュシ大統領は、また、一部の都市のモザンビーク人が反政府勢力の戦略に加担していることを遺憾に思うと述べ、他州の若者を勧誘している動きがあることを警告した。また、テロリストは、若者に対するリクルート活動を強化しており、テロリストの情報提供者と物流のネットワークを断絶するため警戒するよう改めて呼びかけた。

(25日付DW紙)

【経済】

モザンビーク経済 (物価上昇に対するニュシ大統領の発言)

14日、ニュシ大統領は、燃料と穀物の国際価格の上昇により、モザンビーク国民の生活費はますます高くなっており、政府は、近々具体的な対策を講じると述べた。また、政府は、輸入燃料のコスト構造の改善や為替管理を重点においた救済策を直ちに打ち出すべ

きであるとし、財政負担が増す可能性が出てくるが、今は危機的状況であり、政府による断固とした介入が必要であると主張した。

(14日付クラブオブモザンビーク紙 16日付クラブオブモザンビーク紙)

モザンビーク経済 (INEによる最新のインフレ率の発表)

国家統計局 (INE) によると、モザンビークの年間インフレ率はほぼ10%に達し、インフレ率を一桁に抑えるという政府の目標が脅かされている。2022年の最初の5か月のインフレ率は5.56%となった。同時期の2020年のインフレ率は1.13%、2021年のインフレ率は3.02%であった。

(16日付AIM、同日付クラブオブモザンビーク紙他)

非開示債務問題 (シャン元財務大臣の身柄引渡し請求の進展)

7日、南アフリカ憲法裁判所は、シャン元財務大臣の米国への身柄引き渡し判決に対するモザンビーク検察庁 (PGR) の上訴を棄却した。昨年末、PGRは、シャン元大臣を米国に送還するというハウテン州高等裁判所の判決を不服とし、南アフリカ憲法裁判所およびブルームフォンテン最高裁判所に上訴していた。

南アフリカ憲法裁判所はPGRの申し立てを棄却したが、これによりシャン元大臣の米国送還が最終決定したわけではなく、ブルームフォンテン最高裁判所はまだ判断を保留している。

(9日付ディアリオエコノミコ紙、14日付AIMおよび同日付クラブオブモザンビーク紙)

モザンビーク・ルワンダ関係 (ルワンダにおけるモザンビーク査證件数の増加)

ルワンダでは、ビジネス活動を行うためモザンビーク査証を申請する人が増えている。今年、在ルワンダ・モザンビーク高等弁務官事務所は、約300件の査証発給申請書を受理した。

ミキダーデ在ルワンダ・モザンビーク大使は、ルワンダにおけるモザンビーク査証の需要の高まりについて、モザンビークは多様なビジネスの潜在性を有しており、ルワンダのビジネス界はモザンビークでのビジネス機会に関心を寄せていると述べた。また、モザンビークのビジネス関係者は、このようなルワンダ企業のモザンビークへの関心の高まりを自分たちのビジネスのために積極的に利用すべきであると主張している。

(27日付ラジオモザンビーク)

(了)